

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4093100172		
法人名	社会福祉法人 創生会		
事業所名	グループホーム イコロの里		
所在地	福岡県春日市平田台1丁目138番2号 (電 話) 092-595-8681		
自己評価作成日	令和 6 年 9 月 15 日	評価結果確定日	令和 6 年 12 月 12 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

敷地内には広大な庭園があり、季節に合わせた花を觀賞しながら、いつでも気軽に散歩ができる環境になっています。庭園内の畑には様々な野菜が植えられており、入居者様と共に旬の野菜を収穫し日々の食材に使用しています。
更に年間を通じて様々な行事を開催しています。また、地域の行事にも参加をして、地域の方々との交流が図れるように取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 6 年 10 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、落ち着いた色合いの木造の建物である。玄関のスロープ横にはプランターがあり季節の花を楽しむことができる。周囲は戸建ての住宅街で、少し足を延ばすと大型商業施設もある。大通りから少し入った所にあり静かな環境で敷地内には整えられた庭園・畑があり、利用者には丁度よい散歩コースとなっている。職員は利用者の笑顔を引き出す為一人ひとりと向き合い、理念の実現に努めている。利用者の希望に応じられるように管理者・職員とも常に努力をしている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛のある里」「笑顔のたえない里」「安らぎのある里」のホームの理念を、毎朝の申し送り時に読み上げ、理念の共有を図り、実践につなげている。	「里」が地域を表すなど事業所独自の理念がある。理念の実現に向けて、地域行事参加を通して地域との関りを持ち、地域の一員となるよう努めている。利用者が安心して楽しく笑顔が出る生活を支えるため、職員は意見を出し合っている。毎日の申し送り時に理念の唱和を行い、理念に沿った支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流を図っている。中学生の職場体験、地域住民のボランティアを受け入れている。 又、地域で移動販売を計画する際には、敷地を会場として使ってもらっている。	地域の情報は公民館へ取りに行っており、自治会長と話をする機会がある。秋祭りや、餅つき等の地域行事に参加している。自治会・社会福祉協議会と協力して移動販売をした。クリスマス会等の行事を事業所で行っているが、コロナ禍以後、地域に声かけは控えている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症に関する情報を、ご家族や地域の方々に向けて発信している。 又、地域の認知症啓発イベントの企画、運営に携わっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者状況や取り組みの報告を行い、そこで出たご意見などは、その後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議では入居者状況、行事、事故、ヒヤリハット等の報告を行っている。勉強会では、歯科医師から口腔ケアについて話をして貰ったり、認知症の話をしたりしている。会議で行政から事故の対処法についての助言や、家族から上り框の段差解消に関する意見があり、サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者にも参加いただき、当ホームの現状をお伝えしている。また、なにかあれば、都度問い合わせるようにしている。	行政への相談がある際は随時電話で問い合わせを行っている。月1回地域密着型サービス春日支部の集まりがあり、行政も参加している。社会福祉協議会や他事業所との意見交換を行ったり、一緒に認知症啓発運動の協力を行ったりしている。行政等と協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修やスタッフミーティングなどで職員間で理解を深め、施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 但し、防犯上の観点から、夜間に限って玄関の施錠を行っている。	月1回のミーティングで必ず身体拘束防止や虐待防止の研修を実施している。内部研修は全職員がそれぞれ動画を視聴しレポートを提出して学んでいる。玄関は施錠せず、内玄関にはセンサーがあり、音が鳴るとすぐに職員は駆けつけることができる。落ち着かない利用者には職員が寄り添い、支援している。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修やスタッフミーティングで理解を深めるとともに、日々の入居者の状況をしっかりと観察し異変が見過ごされないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見人制度などの権利擁護制度の理解を深めている。 ご家族などから要望があれば、それらを活用できるように支援している。	利用者と家族へ制度について契約時に話をしている。必要時に家族と利用者へ話を する際にはパンフレットを用いて行っており、パンフレットは玄関に見えるよう置いている。職員は年2回、権利擁護についての内部研修を受けて制度について学ぶ機会があり、相談があった時は対応できるようにしている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除などの際にはご家族などに疑問や質問がないかを尋ね、それらに対してしっかりと納得していただけるように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を運営推進会議などで、管理者や職員に表せるような機会を設けている。また外部機関の紹介を行っている。必要に応じてその後の対応に反映させている。	利用者から日常的に思いや意見を聞くようにしている。季節の食べ物が食べたいと希望があった時は、食事内容に入れるなどすぐに対応をしている。家族の来園時は管理者から声を掛けして、聞き取っている。家族からの要望が多かった外出や外泊について対応している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。 また必要に応じてその後の対応に反映させている。	毎月のミーティングや支援時に職員の意見を聞くようにしている。休憩時間の変更、利用者の用具購入の相談や、記録の電子化など意見があり、パソコンやタブレットの準備などの、環境整備を行っているところである。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、性別や年齢を理由に対象から排除していない。また、働いている職員に対しても、その能力を活かし社会参加や自己実現の権利が保証されるように配慮している。	新人の入職時はオリエンテーションを実施している。定年制度はあるものの本人の就労希望があるときは継続できるようにしている。家庭状況や身体状況によりシフトの調整や資格取得時の受験費の助成、資格手当もある。有給の取得もできるだけ希望に沿うようにしており、働きやすい環境を作っている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の中で、職員に対し人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	利用者に対する人権尊重のため、職員に対して教育・啓発に取り組んでいる。内部研修は全職員が動画視聴を行い、レポートを提出している。「人間の尊重と自立について基本的人権と権利擁護を理解する」というテーマで研修を実施している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて介護技術向上を図っている。また、日々の業務の中で介助方法の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着型事業所春日支部会に参加し、同業者との交流を図り、春日市全体のサービスの質の向上する取り組みを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人から困っている事や要望などを聞き取り、ご本人が安心して過ごしていただくための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から困っている事や要望をきちんと聞けるように関係づくりに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族のニーズを的確に把握し、必要な支援を見極めるように努めている。またその可能性を踏まえ他のサービス利用も検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介助する立場ではなく、しっかりと思いを傾聴し、寄り添い、ともに行動している。そうすることで一方通行にならぬよう気を配っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日ごろから入居者様の状況をお伝えし、ご家族に協力していただけることを相談し、職員とともにご本人を支えていただくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、知人・友人の面会等積極的に受け入れて、関係が途切れないように支援している。	利用者との普段の会話から馴染みの場所や人について聴き取りをしている。家族の承諾を得て知人の面会や電話の取り次ぎを行っている。中学生の頃からの友人の訪問があったり、知人や家族との外出、馴染みの理美容室への利用、外食など家族の協力を得て行っている。利用者の顔写真付きの年賀状を作成して送る支援を行っており、入所前の馴染みの人や場所が途切れないような支援を行っている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個人の性格を把握し、入居者様同士が関わりあえるよう職員が橋渡しとなり支援するよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人やご家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の担当職員を中心に、ご本人やご家族からの要望や意向をうかがえるよう努めている。	職員は日々積極的に利用者に声かけを行い、利用者の思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な利用者については、表情から思いを汲み取ったり家族から話を聞いたりしている。職員が利用者と一緒に手芸や花壇の世話をする等、利用者の希望に沿った支援を行っている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、それまでの生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過等を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排尿・排泄・食事・睡眠等のチェックはもとより、会話を通じて感情にも気を配り、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアの課題やあり方等、ご本人・ご家族・担当者を交えて意見を出し合い、それらを反映させた介護計画を作成している。	日々利用者や家族の思いや意見を把握し、職員全員で情報共有して介護計画に反映させている。毎日モニタリング表に評価を記録し、3か月に1回、家族も含めた担当者会議を行った上で、介護計画の見直しを行っている。見直しの結果については、その都度家族へ説明し、同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気づき等を個人記録に記載し、職員間で情報を共有するとともに、その後の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じて、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より月2回の往診を受けている。また、入居者様に体調の変化があればかかりつけ医に相談し、必要があれば受診を行っている。	今までのかかりつけ医や、希望する医療機関への受診を支援している。事業所の協力医療機関以外の受診については家族に協力をお願いしているが、家族の対応が困難な場合は職員が対応している。車いすを使用している利用者については事業所でリフトカーを手配し、職員が同行支援を行っている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の関りの中で入居者様の状況や変化を職場内の看護師に伝え、受診や看護の支援を行えるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、定期的にご本人の状態を確認し、退院に向け病院関係者と連絡を取るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから入居者様の状態をご家族お知らせし、重度化した際、事業所でどこまでできるかをお伝えし、その後をどうするか話し合う場を設けている。	重度化対応に関する指針を明文化しており、事前意向確認書により、重度化した場合の利用者や家族の意向について、入居時点で確認を行っている。また、状況に応じて早い段階から利用者や家族等と話し合いを行い、情報を共有しながら支援を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に、職員が緊急時に対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の災害・消防総合訓練を行うことで、災害時入居者様が避難できるようにしている。また地域と協力できるように、訓練には自治会の方々の参加をお願いしている。	地震や火災を想定した避難訓練は、消防署の協力を得て、昼間想定1回、夜間想定1回の年2回実施している。訓練には地域の自治会長や民生委員も参加している。非常食、飲料水、ポータブルトイレやブランケット等の備品を事業所内に準備している。	
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりが人生の先輩であることを意識し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。内部研修にて職員倫理、プライバシー保護について勉強している。	職員は常に利用者の誇りやプライバシーに配慮し、さりげない声かけや対応を心がけている。トイレのドアは必ず閉める、排泄チェック表は人目につかないようにする等している。また、プライバシー保護に関する研修を行い、職員の意識向上を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いをきちんと傾聴し、入居者様のペースに合わせてご本人が自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重し、なるべくご本人の希望される過ごし方で穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や口腔ケア時に洗面台の鏡を見ながら整容していただいたり、必要に応じて職員が髪型を整えたりしている。入浴時は着替えを入居者様と一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態にあわせ、食事のつぎ分けや調理補助、テーブル拭きお盆拭きなど手伝っていただいている。換食をする際は入居者様と相席にて一緒に食事をしている。	利用者の希望に沿って献立の変更等、随時対応している。利用者と職員と一緒に収穫した野菜を、職員が調理して献立に加えて、季節を感じ、食事を楽しめるように工夫している。利用者は食事のつぎ分け、お盆やテーブルふき、食器洗い等を職員と一緒にやっている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し入居者様の健康状態を把握したり、水分摂取の少ない方には個別に摂取していただくなど工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に合わせた介助方法で口腔ケアを行っている。 必要に応じて、職員が磨き残しがないかの確認を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っており、失禁を減らし、トイレでの排泄に努めている。	職員は利用者の排泄のパターンやサインを把握してトイレ誘導を行っている。できる限りトイレで排泄できるよう支援しており、夜間もトイレ介助を行っている。オムツやパットの種類について常に見直しを行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給や日々の運動を促すとともに、ヨーグルト等整腸作用のある食べ物を提供している。 便秘時はかかりつけ医処方の便秘薬の服用で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人ひとりの状態に合わせて入浴介助を行っている。時間は午前・午後と希望にそって、なるべく入浴の時間を楽しんでいただけるよう配慮している。	3日に1回の入浴を基本としているが、利用者の希望や状態に応じて、月曜日から日曜日まで、午前、午後いつでも入浴できるようにしている。音楽を流したり入浴剤を入れたりして、入浴を楽しめるよう工夫している。入浴を望まない利用者には無理強いせず、時間を置いて再度声かけする等している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを尊重し、それぞれの過ごし方で日中過ごしていただいている。夜間は安心して眠っていただけるよう、環境整備や支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様の服用している薬について理解しており、それぞれに合った服薬支援を行っている。また、服薬によって症状の変化がないか状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力にあわせて、家事を手伝っていただいている。趣味等を伺い、カラオケや塗り絵、散歩等楽しんでいただけるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に合わせ、近隣へのドライブや中庭の散歩ができるように支援している。家族との外出・外泊の予定がある際には、事前に準備をするなどの支援をしている。	敷地内に庭園があり、ほぼ毎日散歩を行っている。神社参り、桜やアジサイの花見等、年3回程度ドライブに出かけている。地域の文化祭、秋祭り、餅つき等にも参加している。年に数回、敷地内で地域の移動販売が実施されており、毎回買い物に出ている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が直接支払いをする事はないが、希望があればご家族と相談の上、財布などを持っていただくこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、ご自身で書いていただけるよう支援している。ご家族から電話があった時は取次いでいる。入居者様から電話の希望があれば可能な限り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家庭的な雰囲気を大切にした環境づくりを心掛けている。また、季節を感じていただけるように、時期に合わせた飾りつけや花壇の植えかえを行っている。	敷地内の庭園にはベンチが置かれ、くつろぐことができる。玄関先のプランターには季節の花が咲き誇り、心地よい空間となっている。居間は吹き抜けで明るく、ソファやテーブル、椅子は、ゆったりと過ごせるように配置されている。居間や廊下の壁には、利用者と職員とで作った季節感あふれる紙飾りや、利用者の楽しい写真等が飾られている。	

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自由に過ごしていただけるように環境整備を行っている。気の合う入居者様が会話を楽しめるように配席したり、リビングより花壇を眺められるように椅子を配置するなど工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの配置は自由で、ご自宅で使われていた好みの物など飾ったりしていただいている。ご自身で整理が困難な方は担当職員がお手伝いさせていただいている。	居室入り口のメモリアルボックスには家族のメッセージカードや思い出の写真等が飾られ、利用者が自室を認識しやすいよう工夫している。テレビ、テーブル、椅子等、利用者の馴染みの物が持ち込まれている。お位牌や遺影等の持ち込みもある。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は入居者様にとって安心、安全に生活していただくよう環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅰ 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛のある里」「笑顔のたえない里」「安らぎのある里」のホームの理念を、毎朝の申し送り時に読み上げ、理念の共有を図り、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加し、交流を図っている。 中学生の職場体験、地域住民のボランティアを受け入れている。 又、地域で移動販売を計画する際には、敷地を会場として使ってもらっている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議などで、認知症に関する情報を、ご家族や地域の方々に向けて発信している。 又、地域の認知症啓発イベントの企画、運営に携わっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、入居者状況や取り組みの報告を行い、そこで出たご意見などは、その後のサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市役所担当者にも参加いただき、当ホームの現状をお伝えしている。 また、なにかあれば、都度問い合わせるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修やスタッフミーティングなどで職員間で理解を深め、施錠を含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 但し、防犯上の観点から、夜間に限って玄関の施錠を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する内部研修やスタッフミーティングで理解を深めるとともに、日々の入居者の状況をしっかりと観察し異変が見過ごされないように努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修にて成年後見人制度などの権利擁護制度の理解を深めている。 ご家族などから要望があれば、それらを活用できるように支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除などの際にはご家族などに疑問や質問がないかを尋ね、それらに対してしっかりと納得していただけるように説明を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見や要望を運営推進会議などで、管理者や職員に表せるような機会を設けている。また外部機関の紹介を行っている。必要に応じてその後の対応に反映させている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員ミーティングを開催し、職員の意見や提案を聞く場を設けている。 また必要に応じてその後の対応に反映させている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の日々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境や条件の整備に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用の際、性別や年齢を理由に対象から排除していない。また、働いている職員に対しても、その能力を活かし社会参加や自己実現の権利が保証されるように配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修の中で、職員に対し人権教育や啓発活動に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修にて介護技術向上を図っている。また、日々の業務の中で介助方法の指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、地域密着型事業所春日支部会に参加し、同業者との交流を図り、春日市全体のサービスの質の向上する取り組みを行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人から困っている事や要望などを聞き取り、ご本人が安心して過ごしていただくための関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前にご家族から困っている事や要望をきちんと聞けるように関係づくりに努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と家族のニーズを的確に把握し、必要な支援を見極めるように努めている。またその可能性を踏まえ他のサービス利用も検討している。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方的に介助する立場ではなく、しっかりと思いを傾聴し、寄り添い、ともに行動している。そうすることで一方通行にならぬよう気を配っている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には日ごろから入居者様の状況をお伝えし、ご家族に協力していただけることを相談し、職員とともにご本人を支えていただくようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様だけでなく、知人・友人の面会等積極的に受け入れて、関係が途切れないように支援している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様個人の性格を把握し、入居者様同士が関わりあえるよう職員が橋渡しとなり支援するよう努めている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じてご本人やご家族の経過をフォローし相談や支援に努めている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	各入居者様の担当職員を中心に、ご本人やご家族からの要望や意向をうかがえるよう努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面談を行い、それまでの生活歴や生活環境、これまでのサービス利用経過等を把握するよう努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタルサインや排尿・排泄・食事・睡眠等のチェックはもとより、会話を通じて感情にも気を配り、心身の変化を見逃さないようにしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人のケアの課題やあり方等、ご本人・ご家族・担当者を交えて意見を出し合い、それらを反映させた介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの実践・結果、気づき等を個人記録に記載し、職員間で情報を共有するとともに、その後の実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況やニーズに応じて、柔軟に支援できるように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、ご本人が安全で豊かな生活ができるように支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医より月2回の往診を受けている。また、入居者様に体調の変化があればかかりつけ医に相談し、必要があれば受診を行っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は日々の関りの中で入居者様の状況や変化を職場内の看護師に伝え、受診や看護の支援を行えるようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院した際には、定期的にご本人の状態を確認し、退院に向け病院関係者と連絡を取るようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日ごろから入居者様の状態をご家族お知らせし、重度化した際、事業所でどこまでできるかをお伝えし、その後をどうするか話し合う場を設けている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当普及員の資格を持つ職員を中心に、職員が緊急時に対応できるように研修を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の災害・消防総合訓練を行うことで、災害時入居者様が避難できるようにしている。また地域と協力できるように、訓練には自治会の方々の参加をお願いしている。		
【Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりが人生の先輩であることを意識し、誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応を行っている。内部研修にて職員倫理、プライバシー保護について勉強している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いをきちんと傾聴し、入居者様のペースに合わせてご本人が自己決定できるように働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースを尊重し、なるべくご本人の希望される過ごし方で穏やかに過ごしていただけるように支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や口腔ケア時に洗面台の鏡を見ながら整容していただいたり、必要に応じて職員が髪型を整えたりしている。入浴時は着替えを入居者様と一緒に選んだりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の状態にあわせ、食事のつぎ分けや調理補助、テーブル拭きお盆拭きなど手伝っていただいている。検食をする際は入居者様と相席にて一緒に食事をしている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を記録し入居者様の健康状態を把握したり、水分摂取の少ない方には個別に摂取していただくなど工夫している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様の能力に合わせた介助方法で口腔ケアを行っている。 必要に応じて、職員が磨き残しがないかの確認を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人のペースに合わせて排泄の声掛けや誘導を行っており、失禁を減らし、トイレでの排泄に努めている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分補給や日々の運動を促すとともに、ヨーグルト等整腸作用のある食べ物を提供している。 便秘時はかかりつけ医処方の便秘薬の服用で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	1人1人の状態に合わせて入浴介助を行っている。時間は午前・午後と希望にそって、なるべく入浴の時間を楽しんでいただけるよう配慮している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の生活リズムを尊重し、それぞれの過ごし方で日中過ごしていただいている。夜間は安心して眠っていただけるよう、環境整備や支援を行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者様の服用している薬について理解しており、それぞれに合った服薬支援を行っている。また、服薬によって症状の変化がないか状態観察を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力にあわせて、家事を手伝っていただいている。趣味等を伺い、カラオケや塗り絵、散歩等楽しんでいただけるように支援をしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の希望に合わせ、近隣へのドライブや中庭の散歩ができるように支援している。家族との外出・外泊の予定がある際には、事前に準備をするなどの支援をしている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には入居者様が直接支払いをする事はないが、希望があればご家族と相談の上、財布などを持っていただくこともある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞い等、ご自身で書いていただけるよう支援している。ご家族から電話があった時は取次いでいる。入居者様から電話の希望があれば可能な限り対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく家庭的な雰囲気を大切にした環境づくりを心掛けている。また、季節を感じていただけるように、時期に合わせた飾りつけや花壇の植えかえを行っている。		

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、自由に過ごしていただけるように環境整備を行っている。気の合う入居者様が会話を楽しめるように配席したり、リビングより花壇を眺められるように椅子を配置するなど工夫している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具などの配置は自由で、ご自宅で使われていた好みの物など飾ったりしていただいている。ご自身で整理が困難な方は担当職員がお手伝いさせていただいている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は入居者様にとって安心、安全に生活していただくよう環境整備を行っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と
				②家族の2／3くらいと
				③家族の1／3くらいと
				④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある
				②数日に1回程度ある
			○	③たまにある
				④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている
			○	②少しずつ増えている
				③あまり増えていない
				④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が
				②職員の2／3くらいが
				③職員の1／3くらいが
				④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が
				②家族等の2／3くらいが
				③家族等の1／3くらいが
				④ほとんどいない